

校長から皆さんへ [全校朝礼]

令和2年5月25日(月)

全校の皆さん おはようございます。校長の倉崎です。

一週間の分散登校を経て、今日から学校が再開します。感染防止を続けるため、多くの制約はありますが、やはりうれしいことです。

今日は、いわば二度目の始業式です。全校生徒・教職員が一堂に会することはできませんが、こうした形(=オンライン)で皆さんにお話しする機会をいただきました。

皆さんは、休業期間にどのくらい学校HPを見たでしょうか。

感染症関連のお知らせが続く合間合間に、教頭先生が校舎や周辺の風景を撮ってアップしてくださいました。「緊迫したニュースが続くのに暢気に学校の写真か、と叱られそうですね」とおっしゃっていましたが、私はこれも大切なお知らせではないかと思えます。私たちは先の見えない状況にいるけれど、学校はいつも変わらずここにあるよ、と伝えたい気持ちでした。

皆さんは、さまざまな思いで今日を迎えたことと思えます。

この2か月足らずに、台湾研修などの行事の中止・変更を余儀なくされました。県総体や文化部のコンクール、そして皆さんが目指してきたインターハイ、甲子園などの全国大会も次々と中止が決定されました。

特に3年生の皆さんの気持ち、共に頑張ってきた後輩や先生方、応援してくださる方々の心中を思うと、今もやりきれません。「なんとかできないものか」と思う一方、全世界で感染拡大が止まらず、見えない敵によって多くの方が命を落とし、治療のため日夜戦う人々がいる現状にあって、決断せざるをえなかった側の苦しさもわかります。「苦渋の決断」「断腸の思い」という言葉をはじめて実感した気がします。

コロナ危機のため、皆さんは確かにいくつもの挑戦の機会を奪われました。この先の進路実現に不安が生じている人もいるでしょう。これらの思いは全国の高校生たちに共通するものであり、決して無理に押し殺し抱えこむ必要はありません。わかちあい、一緒に乗り越えていくための学校再開でもあります。

私たち教職員も高校生活は経験しています。これまでなら、自分の高校時代の記憶や教訓、教師としての経験をもとに、皆さんにアドバイスもできました。しかし、今回は違います。大人にとっても初めてのことばかりで、何が正しい判断なのか、どうすれば危険を防ぎながらやりたいことができるのか——。「全員に共通の正解」が見えない中で悩みながら進んでいます。

でもひとつ言えるのは、皆さんがいなかった期間と、分散が始まった先週を比べると、明らかに先生達の顔つきが違うことです。クラスが始まる、授業ができる、部活ができる、そんな喜びと張り合いが感じられます。

大人は大人にできることを、悩みながらも頑張ります。

どうか皆さんも、今できることにうちこみ、必ず来る次のチャンスを待ちましょう。

最後にもう一点、伝えたいことがあります。

なくしたものがあ一方、得たこともきっとあるはずです。

そのひとつが、「高校生の学びを止めない、誰一人取り残さない」という目的で立ち上がったこのオンラインシステムです。雲南市・カタリバ・雲南三高校の関係者で、試行錯誤しながらも一気に進めてもらい、活用場面が広がってきました。

さらに、「高校生のために役立ててほしい」と、地域の方、同窓生の方など県内外多くの方がふるさと納税をとおして志を寄せてくださっています。誰もが大変なときなのに、「高校生の道を閉ざすな」と応援してくださる方々がいることを、忘れてはなりません。

この時代に高校生として生きる皆さんは確かに不運かもしれません。

でも、この不運をどう生きたか、どう乗り越えたか、誰に助けられたかを次の世代に活かせるのも皆さんしかいません。誰も経験したことのない高校生活を、再会した仲間と共に、今日から新たにつくってください。

**志**あるところに**道**はある